

令和元年度 弘前市総合計画審議会議事概要（第3回）			
日 時	令和元年9月5日（木） 13時00分～15時00分		
場 所	弘前市役所3階 防災会議室	傍聴者	0人
出 席 者	委 員 (14人)	森会長、今村委員、鴻野委員、吉原委員、淀野委員、大西委員、田澤委員、熊谷委員、高橋委員、鈴木委員、斎藤委員、福士委員、一戸委員、外崎委員	
	事務局 (6人)	企画課長、企画課長補佐、企画課総括主幹、企画課主査、企画課主査、企画課主事	
	その他		
会 議 概 要			
1 開会			
2 議事			
(1) 地方創生交付金関係事業の評価について			
○事務局で作成した外部組織としての事業効果評価（案）について、修正意見なし。			
○各事業に係る主な質疑等の内容は以下のとおり。			
①弘前版生涯活躍のまち推進事業について			
<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブシニアがサービス付き高齢者向け住宅等の対象施設に入居した場合は、移住後に介護が必要になっても住所地特例で市の介護保険料の負担は増えないとの説明があったが、市の負担が増えなければ良いと受け取られるような説明は誤解を招くのではないか。移住後も元気に生き生き過ごしてほしいという前提で取り組んでいる事業だと思う。 			
⇒市としても負担が増えなければいいと考えている訳ではない。ご意見のとおり、誤解を招く恐れがあるので、説明資料を改めたい。			
<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の問題や冬場の生活への支援について、セミナー開催という説明があったが、そもそもセミナーに行く交通手段がないことが課題である。例えば学生は、無料のバスなどお金のかからないものを求めており、冬場の生活への支援に対し、思い切って税金を投入して取り組んでほしい。 			
⇒弘前版生涯活躍のまち推進事業だけではなく、いただいたご意見のようなニーズがあることを踏まえ市全体の問題として検討したい。			

②都市と地方をつなぐ就労支援カレッジ事業について

- ・昨年度の委託費について、適正な金額といえるか。

⇒委託費のうち、旅費などは実際にかかった費用を支出している。

③ひろさきライフ・イノベーション推進事業について

(質疑等なし)

④ひろさきりんご産業イノベーション推進事業について

- ・運動教室の参加者数は、農家のみの人数という理解でよいか。

⇒そのとおりである。

⑤地域クリエイターと連携した新たな担い手育成及びコンテンツ等開発事業について

(質疑等なし)

⑥弘前さくらまつりにぎわい創出事業について

(質疑等なし)

⑦その他、各交付金事業以外について

- ・青森港への大型クルーズ船来航の際、弘前にもバスで観光客が来る。その情報を前もって入手し、弘前に着いた際に歓迎イベントをやるなどして各分野の魅力を PR してはどうか。

⇒本市の職員が青森市のクルーズ船到着場所へ出向いて、弘前のパンフレットを配布するなどの取組は県と一緒にやっているが、弘前に着いた際の歓迎イベントは恐らく実施していない。一方で JR 豪華寝台列車「四季島」が来弘する際には、弘前駅ホームで市の職員やたか丸くんが出迎えを行っているので、いただいたご意見を担当課に伝える。

- ・弘前駅では、市の職員が歓迎イベントでパンフレットを渡したり、観光客の質問に答えるなどの取組を行っている。バスよりも JR で来弘する方が多いと聞いていたが、バスについても同じような取組を検討するとよいと思う。

- ・観光コンベンション協会では、例えばクルーズ船の乗客がりんご公園に観光バスで来るという情報を、問い合わせがあつて初めて知ることがある。乗客に直前で希望を聞いて行き先が決まるケースもあると聞いているので、もう少し情報収集の方法がないか、協会としても検討したい。

・さくらまつりだけに限らないが、弘前へのリピーターを増やす取組として、例えば弘前城本丸への入場券について、2回目以降の割引クーポンを配布するなどの取組を行っていく必要があると思う。

⇒ご意見のあった旨、担当課に伝える。

・弘前は魅力が多いが、様々な展示会やイベントでPRが下手だと感じている。イベントに限らず様々な機会にPRをもっと積極的に行ったり、例えば地元産業の魅力を知ってもらう取組も子どもたちが実際に楽しめる内容になっているのかなどを考えていかないと、単に取り組んでいるというだけで終わってしまう。弘前は魅力があるまちなので、もっと前のめりで積極的に取り組んでいくべきだと思う。

⇒展示会をはじめとした様々な機会に、PRが下手だというご意見はいただいている。今のご意見も担当課へ伝え、より効果的にPRできるように取り組んでいく。

(2) 総合計画リーディングプロジェクトの二次評価について

○事務局で作成した二次評価（案）について、修正意見なし。

○主な質疑等の内容は以下のとおり。

・リーディングプロジェクト「つながる・支える地域コミュニティ」のアウトカムを「妥当でない」としたのは、指標の設定自体が妥当でないという意見ではなく、市民参加型まちづくり1%システム支援事業の新規事業採択数の指標は達成されていないからであり、取組は評価してもよいのではないかという意見である。

・リーディングプロジェクト「誰もがいきいきと活動できる快適なまちづくり」の「ほのぼのコミュニティ21推進事業」について、民生委員は守秘義務があると思うが、ほのぼの交流協力員に守秘義務は課せられているか。

⇒ボランティアなので、守秘義務は課せられていないと思うが、確認したい。

・民生委員とほのぼの交流協力員を兼務している場合、守秘義務が異なる点で情報漏えいの懸念があるのではないか。両方とも良い制度でそれぞれ役割も明確に違うと思うので、ほのぼの交流協力員がより活動しやすいように、個人情報保護の観点での対応を市で考えるべきだと思う。

3 閉会